



「仙岩地域中心部地熱地質図」刊行される 特殊地質図(21-5)

5万分の1の標記地質図が説明書(73p.)とともに、九州地域地質センターの須藤 茂氏の執筆により完成しました。「地熱地質図」という名前は、対象地域が我が国有数の地熱地域で、温泉・噴気など多くの地熱徴候地が分布しており、そのような情報を意識的に盛り込んだ地質図という特徴をもっていることを表しております。この地域は、10万分の1仙岩地熱地域地質図(1975, 特殊地質図21-2)の中心部の地質をさらに詳しく区分したものです。地質区分の凡例の数は94にもなっています。

この地域には、すでに松川・大沼・葛根田の3つの地熱発電所が稼働しております。かつて硫黄を採掘していた松尾鉱山跡もこの地域の東部にあります。また、十和田八幡平国立公園に含まれ、玉川温泉などの多数の温泉地や安比高原スキー場などのリゾート地を擁しております。

仙岩地熱地域は、秋田県と岩手県にまたがり、東北日本脊梁山脈中に位置しております。地域の中には八幡平(1613.6 m)・秋田焼山(1366.1 m)など多くの火山があり、また、北上川・玉川などの源流域となっております。本地域外の南東方には岩手山、南方には秋田駒ヶ岳、南西方には田沢湖、西方には森吉山があります。

この地域の地質は、秋田焼山火山・茶臼岳一前森山火山群・八幡平一諸槍岳火山群・大深岳一曲崎山火山群・荷葉岳火山などの第四紀に生成した火山、新第三紀末—第四紀に噴出した玉川溶結凝灰岩、および新第三系の堆積岩類と古玉川溶結凝灰岩から構成されています。

秋田焼山火山は、この地域では最も新しい有史時

代に活動歴がある火山で、安山岩—デイサイトおよび少量の流紋岩からなり比較的起伏に富んだ溶岩流地形をしています。これは、秋田駒ヶ岳や岩木火山が玄武岩—玄武岩質安山岩からなり、なだらかな斜面をもつ成層火山体を形成しているのと対照的です。秋田焼山火山の山頂部には東西約1 kmの凹地があり、その中に鬼ヶ城火口丘が、南東縁に拇森西円頂丘が生成しています(図)。

安比高原スキー場のある前森山は、かんらん石輝石安山岩および輝石かんらん石玄武岩からなる前森山前期噴出物および前森山後期噴出物からできています。

玉川溶結凝灰岩は、約200万年前に噴出した多斑晶流紋岩からなる倉沢山溶結凝灰岩と約100万年前に噴出した輝石デイサイトからなる掬森牧場溶結凝灰岩からなっています。層厚はあわせて最大900 mに達します。玉川溶結凝灰岩の下位には4層の流紋岩溶結凝灰岩層からなる古玉川溶結凝灰岩が厚く堆積しています。層厚は最大2800 m以上になります。

この地質図の範囲は、5万分の1地形図の「八幡平」の大部分、西隣の「森吉山」の東部約3分の1、および「八幡平」の北隣の「田山」の南部を含んでおります。



図 秋田焼山山頂部の鬼ヶ城(北西より見る)
鬼ヶ城は溶岩円頂丘で、北側(左)には爆裂火口が認められます。鬼ヶ城を取り囲む尾根は、カルデラ壁の様に見えます。(説明書第8図より)